

月別アーカイブ【2010年10月】

防府を良くする会

2010年10月31日



昨日、防府を良くする会が結成。150人ほどの方が会場に参加されたとのこと。

新聞や広報では、議員定数削減は時代の流れだが、議員定数半減は乱暴である。

それよりも、市長市議が歩み寄って、防府の発展を目指してほしいという極めてニュートラルで真っ当な感覚である。

地価下落率二年連続最下位。JT防府工場の撤退。新体育館建設費用返済。さらにクリーンセンター建設には190億の費用を要するという。

「削減」「削減」では、そう遠くない時に防府市は行き詰るであろう。

この難局をまちのトップがどう受け止め、実行に移すかが問われているのではないかと。

良くする会会長の西本正彦先生は、かつてPTA時代にお世話になった。

高校の恩師も名前を連ねておられる。

どの団体にも属さず、真摯に防府のことを憂いておられる気持ちが

伝わってくるようだ。だから、150名ほどの方が昨日は会場に参集されたのであろう。

新田地区文化祭に出席。新田小学校の吹奏楽でオープニング。

卒園児も、小学生となりメンバーに。さわやかな演奏に心がいやされる。

素敵な作品を拝見後、テントでぜんざいを食べているとご両親が挨拶にこられた。何ともいえないありがたさである。しっかりと成長されていくことを心より念じる。

「地域の方々の、つながりがこれからは大事。年寄りが年寄りを助ける時代。わしらもがんばるで！」80歳を過ぎたおじいちゃんから声をかけられる。

入るを図る

2010年10月30日

昨日のブログには「入るを図る」と書いた。防府市平成23年度予算編成方針、よく見ると「入るを量る」と書いてある。

要は「はかる」がポイントなのだ。「はかる」には、図る、量る、測る、計る、諮る、謀る、といろいろある。

しかし、経営の基本は、「入るを図り、入るを量って」ということではないだろうか。

どの字の使い方に、本来の正しさがあるのか、確たるものはないが、私は「入るを図る」がトップの基本姿勢だと考える。

また、今朝の新聞を見て驚いた。

昨年7月21日災害での土砂処理を、今年3月末山口市の業者に随意契約した。その契約が期限の11月1日までにできないので、延長をするということのようだ。

防府市議会は100条委員会をつくり、その内容に関し糾明中である。

私自身「100条委員会」なるものについては、防府市議会で、審議されることであると考え、防府市長選で100条委員会を取り上げたこともない。

ただ、防府市長選で申し上げたのは、「何故防府市がその処理を防府市の業者ではなく山口市の業者に委ねたかわからない、理解できない。」ということであった。

防府で起きた災害の処理は、できうれば「地産地消」で解決するのが行政の誠意ではなかろうか、と率直に考えたからである。

その契約、工事が完了せずに、延長となったこと。来年度予算編成方針の「入るを量りて、出るを制す」とは、かけはなれたものではないだろうか。

なお、「はかる」は「量る」ではなく「図る」を、私は今後も使用していく。

JT防府 12年春廃止

2010年10月29日

朝刊、トップニュースに「JT防府 12年春廃止」の文字が目飛び込んだ。

「ウッソー！」我が目を疑う。

「100年の歴史 事業効率化で」と小見出しが続く。

明治42年専売局三田尻試験場として創設され、現在に至るが、時代の波なのか？

この十年の間に鐘紡がなくなり、かつて防府の代名詞のようだった工場群も縮小を余儀なくされている。

防府から、どんどん人と物が離れていっている。防府も縮小していっているのか。

この近年の行政が、現状を直視し、先を予見して、効率的、効果的な対応をしてこなかったことのツケ、ひずみが噴出した。今からでも、市長市議が協力して、この困難に全力で立ち向かうことが最優先課題ではないのか。

今、「政治」が問われている。

危機感を、市民が共有する時ではないだろうか。

かつて、マツダ防府工場竣工式の時、餅まきをしてお祝いしたとのこと。

その餅まきが終わり、壇上から降りた二人の方。

一人はマツダ防府工場誘致に全力を挙げられた鈴木防府市長。もう一人はマツダ山崎社長。工場誘致には大変なご苦労、紆余曲折があったと聞く。

そのお二人が互いの苦労を讃え、涙を流して抱き合ったエピソードがあることを、防府の市民、何人がご存知であろうか？

これこそ「政治」。

「入るを図りて出るを制す」

防府市の来年度予算編成方針であるようだが、当たり前の話。「政治の素人に何ができるのかと揶揄された私が市長選の時に最も訴えたことである。今さら、あえて言うことではない。

JT防府工場、地価下落率連続ワーストなどの結果がすべてである。

種を捲いてこなかったから、芽が出ない。

適度な水分を与えなかったから、萎れていく。

時を傍観すると恐ろしい結果を生ずる。

言葉ではなく、結果が「政治」。その結果責任さえ自らとることのできない政治屋が増えたことを嘆く先輩と夕食を共にする。

その方は、海外とりわけアジアとの仕事をされているのだが、防府だけではなくこの国全体に本当の危機がせまっていることに気付かないでいる不安感を訴えられた。

私たちの世代にかけられた責任は大きい。

「子育て・孫育てフォーラム」オープン

2010年10月28日



「孫育て」をキーワードとして、フォーラムを開催する。今日が1回目。

日本で最初におもちゃライブラリーをオープンした辻井正先生の講演である。

定員30名で募集をしたが、ほぼ倍の申し込み人数で、ホールは満杯。

私としても初めての取り組みではあるが、この防府から全国発信できることを的確に実行していきたい。

取り組んでも、具体的な成果が出ないのでは、やる意味がない。

まちづくり、ひとづくり、そして政治も同じだ。目標を決め、具体的にまちや暮らしが変わらなければ意味がないのである。

私は、このフォーラムが、県、国へと具体的に発信できるようなものになることを念じている。

以下は、今日の私のあいさつ文であらう。

子育て・孫育てフォーラムにあたって

ほうふ子育て支援センター長 島田 教明

初めて、「孫育て」という言葉を聞いたのはいつだったのでしょうか？もう随分前になると思うのですが。

私どもは、「子育ての支援」を目的に平成7年「ほうふ子育て支援センター」をオープンし、おもちゃの図書館や親子サロン、園庭開放事業などに取り組んでまいりました。おもちゃの図書館2,000人。親子サロン1,600人。園庭開放500人。他の事業も含めて、年間を通じて本当に多くの親子の方に利用してもらっています。

さて、この9月、敬老会に子どもたちとお伺いした時のことです。おじいちゃん、おばあちゃんの素敵な笑顔に出会えたことで「孫育て」という言葉の大事さを改めて学びました。

「おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔があるまち」こそ、自然に子育ての支援となっているのではないかと思うのです。世代を超えて「ふるさとのまちの姿」を考えていくこと。そこに、この国が本来持っていた子育ての素晴らしさを見出していければと考え、このフォーラムを企画しました。

定員を超えて多くの方に参加いただき、心より感謝申し上げます。今後とも「地域といっしょに活動できる支援センター」を目指し、努力してまいります。

そして、この度の機会を新たな子育て・孫育ての場としてご利用いただけるきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、辻井正先生、池内克彦先生、今川元治先生には、快く講師をお受けいただきましたことお礼申し上げます、センター長としてのご挨拶とさせていただきます。

浜っ子クラブ

2010年10月27日

放課後子ども教室「浜っ子クラブ」開講式が、中関小体育館で行われた。

中関小学校1年生から5年生まで41人が参加。正式には、11月17日から隔週で実施され、地域の方々、老人クラブ、母親クラブ、PTAの方たちが、交代でお世話をされる。ボランティアで支えて下さる方たちの「輪」に感謝である。

きょうは、開講式の後、早速老人クラブの方たちが「ペタンク」と「グランドゴルフ」をして一緒に遊んで下さった。年間メニューには、地域の伝統的な遊びも取り込まれ、外遊びや世代を超えて人間関係を学ぶことが少なくなっ

た現代の子どもたちには、とても良い機会である。

さて、「子育て孫育て支援フォーラム」を明日から3回実施する。場所はきんこう保育園。夜6時からだが、3世代、いわゆる世代を超えて子育て支援を考えるきっかけとなれればと思う。

定員30名ということで、募集をしたが50名を超える参加者。ホールを何とか整理して、いい子育て孫育てのきっかけになるよう頑張りたい。

「世代を超えて」手をつなげる風土を取り戻したい。

保育問題検討委員会

2010年10月26日



保育問題検討委員会に出席。東京、青山にある「こどもの城」にて開催。日帰りではあるが、帰りの飛行機最終便は羽田で遅れ遅れて午後9時過ぎ山口宇部空港着。

会議は、厚生労働省元課長や保育審議官経験者、全国各地の園長と今後の幼保一体化についてスタンスの確認が主な議題。

私が内閣府子ども指針のワーキングチームに入ったため、急きょ事前会議に出席することとなった。

今の政権は、待機児童解消のみに、目が向いているが、やはり大事なことは子どもの育つ環境の大事さである。海外に比べ圧倒的に子どもにお金を使っていない国、日本。いたる所にしわ寄せがきているのに、抜本的改革を今回成しえなかったら、この国の未来はないように思う。保育、教育の大柱を打ち立てたい。

時間の関係もあり、東京駅から会議会場までタクシーに乗る。乗るや否や運転手さんが「普段行きもしない選挙に行った。きっとよくなると思って民主党に投票した。もう今はがっかり。いいことばかり言って何もできていない。選挙に勝つことしか考えていなかったことがよくわかった。選挙しか考えていないということは、自分のことしか考えていない。」

生活、暮らしを具体的にどう良くしていくか、責任と権利を一人ひとりが自覚する時代に入っている。

銃剣道

2010年10月25日

日曜日の夜、銃剣道の模範演技を拝見する。

二人一組で八つの型を演じられたのだが、

最初の型から、その迫力に圧倒され、釘づけになる。

携帯で写真を撮ろうと思っていたが、最後までシャッターを押す機会がなかった。スキがないのである。

小学校の頃、自衛隊南基地の中が通学路であったため、銃剣道を持って練習する姿は日常の光景であった。

しかし、しかし、目の前で、身体寸前のところで止める気魄のこもった演技には、身震いするほどの感動があった。

木銃を持って銃剣道衣に触れんばかりに寸止めの迫力。一瞬にして、変化する速さにも圧倒された。

銃剣道は国体種目である。

来年は山口国体。

あの魂のこもった迫力で、いい結果を残してほしいと心から願う。

私も、魂のこもった迫力を全身で頂戴したこと、感謝である。

救命

2010年10月24日

土曜日遅く所用で、京都に新幹線で行く。岡山の手前でアナウンスが入る。

「お客様の中で、お医者様か看護師様いらっしゃいませんか？5号車で急病人がでたので、お願いします。」
確かそのような内容であった。

しばらくすると、一人の年配の女性が通路を走っていく。続けて赤ちゃんを抱いたお母さんが走っていく。

岡山に着くと急病人の手当てのためしばらく停車。

急病人のお客さんを下ろし数分して漸く発車。

ホッとして無事を念じながら、トイレに行くと通路でそのお二人に車掌さんがお礼を述べていた。

ふっと若い女性を見ると、生後間もない赤ちゃん。

乳児を抱えての移動はさぞ大変だろうと思うが、その方たちの俊敏な行動は美しかった。

同じ日、わが孫は、飛行機で東京へ。

下関市のある病院の看護師さんたちと同列。飛行中も、いろいろあったようだが、着陸時母乳を与えていると「あんだ、なかなかやるわね。」

その言葉に娘はカチーンときたらしい。

「降下するときはおっぱいを飲ませておくと赤ちゃんへの負担がちがうらしいので」と精一杯答えたそうだ。

同じ救命に関わる大事な仕事をされているのに、少しのふるまいで相当な差がつく。

カルチャーショック

2010年10月23日



カルチャーショック。この言葉を聞いたのは、実に久し振りだ。

青木新門さんの講演、冒頭である。

アカデミー賞等多くの賞を総なめにした映画「おくりびと」の原作者である。ご本人は原作「納棺夫日記」と、映画での描かれ方が違うため、原作者名を外すことで、映画化を許可したとのこと。

俳優本木雅弘との出会い。彼の誠実で真面目さが、数多くの相違点を乗り越え映画化に至ったことを知る。

納棺夫日記の中に、腐乱したご遺体とであった時のことが、「うじが光って見えた。」と書いてあるのを、本木雅弘が見る。インドに行き、「生と死が当たり前のようにつながっている」光景にカルチャーショックを受けた彼には、納棺夫日記という本に強く感じるものがあったようだ。

本木雅弘が映画にしたいと思ってから十年近くの紆余曲折。

壮絶なやり取りの末、完成させた二人の間の信頼感も見事である。

講演の終わりに「現場」の大事さを説かれた。死の現場に立ち会っていないことが、少年少女の悲惨な殺人事件を生むのではないか。

現場、暮らし、生活の中に実相はある。

講演を終えてステージから出てこられた、そのお姿、握手される力強さに、人のみならず、すべてのものの実相を見つめんとされている気高さを体感する。

本日アスピラートで、親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要が行われました。
稚児行列・宗祖讃仰作法(音楽法要)・仏教讃歌の集いの模様です。

里芋ご飯

2010年10月22日



保育園の誕生会。きょうのメニューは里芋ご飯。

私も初めての料理だ。

誕生会では、家族の方にも来てもらい、スローフードのランチを一緒に楽しんでもらう。長年の伝統だ。

家族の方も、「里芋ご飯」には興味津津であったようだ。

感想を聞くと「家では里芋を食べないのに、ご飯と一緒にすると食べるんで

すよね、」

「家でもつくってみたいと思います。」「里芋ご飯っていうから、栗ごはんのように、ゴロゴロ里芋が入っているのかと思ってました。」「里芋の混ぜご飯と言われたほうがわかりやすかった。でも、ぶちおいしい。」

私も「ぶちおいしかったです。」

こんなにおいしいとは思わなかった。

里芋を食べない子供が「おいしい」と食べている。

工夫すれば、お金をかけなくても、うまくいく。

嫌いな里芋であっても工夫次第でおいしい料理に変わっていく。

まちづくりのポイントもここにあるのだが。

奄美大島

2010年10月21日

奄美大島のニュースを見て、驚いた。

このような時期に、溢れかえらんばかりの水が。

「孤立地域の救助難航。」の記事に、そんなことがあるのかと耳を疑う。

多くの方が大変な不安の中にいる。

昨年の防府の7、21の映像も他の地域の方には、

そう映ったに違いない。

本当にいつ何が起きるかわからない時代だと改めて思う。

しかし、いつになったらあの風景が変わるのだろうか？
いつになったら安心して住むことができるようになるのだろうか？

「奄美の方も救援活動後の復旧に多くの時間を費やすのだろうか？」と、ふと思う。

一人ひとりにとっては「生活」が一番である。
優先順位が「自己中心」か「みんなの生活中心」なのか？

その考え、目指すところの違いで、まちづくりも復旧も大いに差がでる。

「あなた、がんばってよ。私たちの為がんばってよ。みんなの暮らしの為にがんばってよ。」と、ありがたい励ましを今日も頂戴する。

孫

2010年10月20日

今日も早朝から、忙しかった。

夜 11 時前に帰宅。

少し飲んでいたので、代行運転にお願いし家まで帰る。

誰も起きていないかと思ったが、9月に生まれた孫をあやしな
ながら家内と娘が起きていた。

疲れが吹っ飛ぶ。といっても最近では 30 代 40 代の体力に戻った感じだが、
孫の顔を見るとホッとする。

体力的なものより、精神的に安定する作用が孫にはあるようだ。

孫の笑顔が、おじいちゃんおばあちゃんの笑顔につながる。

いや、おじいちゃんおばあちゃんの笑顔があるまちは、みんなが笑顔になれる。

そんな、まちづくりを目指すことが防府のみならず山口県、国の課題になればと思う。

紫水会 中四国ブロック山口大会

2010年10月19日



紫水会 中四国ブロック山口大会が宇部カントリークラブで開催される。実行委員長をさせていただいたが、160名の多くの参加者、そして山口、地元の応援に感謝。

京都、本願寺の新門様と、初めて一緒にプレーするご縁を得る。おそらく、最初で最後だと思うが、ありがたいひと時であった。

プレー前、キャデイさんに、新門様の説明をする。

なかなか伝えにくいところもあったのだが、「新門様の曾祖父である大谷光明様は、日本にゴルフルールを取り入れた方、そして普及伝導されたゴルフ界にとっては大恩人。」

とお話しすると何とか輪郭はつかんでもらえた。

いつも笑みを絶やさず、快活にプレーされるお姿に、お人柄を肌を通して感じる。

背負っておられるもの大きさを微塵もお見せにならず、しっかりと一つひとつ前向きに取り組まれる姿に私自身も大きな勇気、励ましを頂戴する。

今日の写真は、閉会式で実行委員長挨拶をする私と新門様との奇跡的なツーショットである。

ご縁

2010年10月18日



朝から忙しかった。最近また一段と忙しくなった気がする。

でも、なんとか田頭よしたかさんの原画展に間に合った。

先週からアスピラートで開かれているのだが、ご本人滞在は今日まで。

絵本作家で、いくつもの有名企業のカレンダーに採用され、ふるさと中関のまちを那須先生の本の挿絵で描いた。

その挿絵の原画は見た瞬間、私はタイムマシンのように少年時代に帰った。

別れ際、「あの原画。中関の公民館などに残せませんか？」思わず言ってしまった。

田頭さんは、私の少し先輩で、近くの洗濯屋さんで、何といても錦江保育園の出身なのだ。単身東京に行き、年月をかけてふるさとで原画展。お父様の33回忌ということもお聞きした。今月24日までです。ぜひ行ってみてください。そこには感動があります。

夕方からは、京都 西本願寺新門様をお迎えして、「聞法のつどい」。

明日の紫水会山口大会、私が実行委員長ということもあり、山口宇部空港まで新門様をお迎えにあがり、懇親会もご臨席していただいた。

いろいろなご縁が重なり、いろいろな場を経験させていただく。

ご縁に感謝。

トロの丘

2010年10月17日



みちのくは、もう冬の準備。朝から、時雨模様。

バスに揺られ、1時間あまり。徐々に広々とした青空に変わり、ゼミナールの仲間のみどりが丘保育園に到着。一昨年新園舎が完成した直後に地震に遭い、メンバーへの披露が少し遅れたが、今までの経験、研鑽を生かし、我々のノウハウを生かし実に素敵な保育園園舎であった。

高台に建っていることもあり、お部屋からの眺めも見事である。眼下に太平洋の水平線が、緩やかなカーブを描いている。

驚くのは、それだけではなかった。

裏山に造られた園庭は、フレーベルが理想としたような、子どもの牧場であった。

なだらかな斜面を上手く利用し、小さなお家、花壇、寝転がってお空を見るスペース。

うっそうとした森の中に、それらが、子どもの心をくすぐるように配置してある。

名付けて「トロの丘」。

丁寧に子どもが育つ環境を整えていく。子どもにこそ、よりいっそう誠実に向かい合う。

ふるさと防府で、大事なことは、こういうことであると、再確認。

ほいくゼミナール21IN 青森

2010年10月16日



早朝、山口を出発。午後1時半青森三沢空港に着く。

着陸し辺りを見回すと、戦闘機が見える。

思い出した。30年前、勤務していた障害児施設の出張でこの空港に来たことを。

滑走路に着くやいなや機内アナウンス。「機内よりお写真を撮られないように。」

軍事施設のため、撮影禁止となっていたのだ。

さすがに、今回はそのようなアナウンスはなかったが。

バスに揺られ、八戸のホテル、ゼミナール会場に。

三時から荒井先生とのゼミナール開始。全国から100名弱の参加者の前で、第一声。

国の政策で保育園、幼稚園の一体化が進められていることへの持論をお聞きいただく。

多くの声、地方の悩みを受け止め、国に提言していく。

山口ムジカコンパル

2010年10月15日



山口ムジカコンパル演奏会が中関幼稚園で開催された。

フルート、バイオリン、ピアノそれに童謡も交えた演奏会は
あっという間の1時間であった。

「本物」という言葉を自分でもよく使用しているが、
やはり「本物」の生の音は子どもたちに、しっかりと心に届くようだ。

主に、子どもたちの知っている、聞いたことのあるポピュラーな曲で
構成されていて、演奏会全体の組み立ても、とても良かった。

また、フルートの分解、組み立て。バイオリンの弓の分解、組み立て。
ピアノの構造等の説明は、いわゆる「わかりやすく伝える」という
私たちの園の教育メソッドに合致したものであり、子どもたちも興味を持って
その空間にいることができたと思う。

演奏会終了後、中関幼稚園の子どもたちは、「話を静かに聞くことができますね。」
「しかし反応が子どもらしく、自然な姿」など、的確に教育評価を頂戴したことは、
演奏への感謝と共に、素直にこれまでの努力、成果として喜びたいと思う。
今日の写真は、演奏会で私が歌っている場面です。

午後、細い路地を走行中、カーブで対向車。たがいにスピードは出していなかったのだが、よく見ると私のブログ
を毎日見ていただいている方。
思わず車中より手を振ると、わかってもらえたようで、笑顔になられた。
笑顔で行き交うことのできる「まち」はいいですね。

明日は青森。お世話になった先生とのゼミナール。
精一杯やってきます。

節と年輪

2010年10月14日

波乱万丈、苦労を重ね、現在の地位を築いた社長さんの話を聞く。

なるほどと思ったのは、企業の「地域貢献」を一つのコンセプトとして
実行されていることだ。

自治会とのつながり、環境整備、ボランティアなことも積極的にかかわるとのこと、

「地域と共に」とか「一人では、一馬力しかないのだから。みんなのおかげ」等、
会話の中にも自然に品格が感じられる。

「苦労すると優しくなれる。」「節も大事だが、人生という年輪も大事。」

また、ありがたい方と出会えた喜び、ご縁に感謝。

久しぶりに、午前様の帰宅。

イモ掘り

2010年10月13日



抜けるような青空、右田ヶ岳の麓。
きょうは、子どもたちとイモ掘りに。

慣れている子どもは、夢中になって両手で芋をつかんで、
掘り起こす。
恐る恐る触る子どももいれば、土の中にいた幼虫に興味を
惹かれる子どもも。
本当にさまざまである。

でも、自然の中にいる子どもの眼は輝いている。
お手伝いのお母さん方も汗を流して、子どもたちが掘りやすいように
バックアップ。

ふと、あたりを見回すと、昨年の集中豪雨の時の土砂がそのまま残っている。
復旧活動の気配もない。

近所の方に聞くと、なかなか手がつけられない状態になっているとのこと。
理由は定かではない。

帰ると、チリ、サンホセ鉱山から、奇跡の生還のニュース。
歓喜の声の中に、地底から再び戻ることができた心中はいかに？

地底も自然。土砂も自然。イモ畑も自然。
ジャン・ジャック・ルソーは「自然に帰れ」と説いたが、

仏教的には自然はじねんと読む。

ありのままの姿である自然(しぜん)と目には見えないものとしての自然(じねん)。対立するかのような概念が現代の日本語では同居している。

もう一度、「自然」の概念の勉強をし直さなければと思う。

でも、みんなが一つになれるような方向に持って行けない防府の状況は自然な姿であろうか？

老人デイサービス

2010年10月12日

夜、お伺いしたお宅でのこと。

エコ、無害、消臭が売りの空気清浄剤、洗剤などの話であったのだが、だんだんと流れが保育園のことになり、老人デイサービスのこととなる。

「保育園のどこにデイサービスはあるの？」

「0歳と1歳児のお部屋の棟の2階がきんこう老人デイサービスです。赤ちゃんが寝ている姿を窓ガラス越しに見ながらエレベーターで2階に上がってもらうんです。2階からは、園庭で遊ぶ子どもの姿が見えるようになっています。コンセプトは、自分が老人デイサービスを利用するようになった時、利用したいと思う施設を造りたかったのです。」といっきにしゃべってしまった。

最近、いっくにしゃべることが多いと感じる。思いを伝えたいことが多いのだ。

「あんたらがやらんにや、誰がやるんか！」するどい檄。

1週間前の檄が脳裏に残っている。

赤ちゃんによろしくね！

2010年10月11日

90歳になろうとするおばあさま。大勢のご親せきの方々とお寺まいり。

お帰りになるときに、何ともさわやかな笑顔で「赤ちゃんによろしくね」とご挨拶。

赤ちゃんとは、私の孫のこと。

その孫に「よろしくね！」と言われる心持ち。

正直、人柄の素晴らしさ、人生をまっすぐに歩いてこられた強さ、すごさを体感する。

人は面と向かった時に、いろいろなメッセージを感じる。

食生活が乱れだした昭和30年代生まれには、90歳という年齢を迎えることは、かなり難しいことかもしれないが、

できれば、年老いてもさわやかなメッセージを送れる確かな人生の歩みをしたいと深く思う。

もったいない

2010年10月10日



1週間遅れの、わいわいスポーツフェスティバルが終わった。1週間遅れたが、その甲斐があった。すべてがスムーズに進み、随所に感動があり、心に残るフェスティバルとなった。

来年の山口国体のマスコット「ちよるる」を模した風船を飛ばして、みんなでちよるる音頭を踊った。青空に吸い込まれるように飛んでいくちよるる風船を親子ですっと追いかけた、そのひとは、一生涯の想いでになることだろう。

私も一生懸命走った。保護者競技で、決勝に残り全力疾走。気持ち良かった。やはりスポーツは最高だ。すべてが終わり、後片付けも終わりかけた時、障害のある子どものお母さんから温かい言葉を頂戴した。「この時間が終わるのがもったいない。」

来年は小学生。だからこそ、みんなと一緒に過ごせた、今日の1日を味わい深く受け止められと思う。

「もったいない」の言葉の素晴らしさを、改めて学んだありがたい1日であった。

感謝。感謝。感謝。

夕焼け

2010年10月9日



明日は、ワイワイスポーツフェスティバル(運動会)。

先週、雨天のため1週間順延となったのだが、大勢の役員さんたちに、お手伝い頂き準備万端。

最終打ち合わせを済ませて、職員とアイスコーヒーを飲みながら談笑していると、だんだんどんより雲が晴れて、思いがけない夕焼けに。

明日は、きっと良い想いで造りができると確信。

秋の素敵な1日を親子の大切な想いでの日！

園長会議

2010年10月8日

保育園園長会議に出席。

季節がら、どこも行事が多い。

よって、会議の議題審議も日程の調整がつけば OK という感じである。何とか、折り合いが付き、ホッと一息。

朝方、きんこう第二保育園の前、中浦に向かう道で、動物が死んでいたそうである。

センターラインのところで、おそらく車にひかれたのだろうけど、狸か犬かどっちかだったらしい。

正門の前なので、防府市子育て支援課に相談すると、市のクリーンセンターへ電話するように指示。主任が電話すると「ご連絡ありがとうございました。保育園の前でもあり、できるだけ早く参ります。」と配慮ある対応。

感動して、そのことを、わざわざ私に伝えてくれた。

ちょっとした、心配りで気持ちが変わる。

ノーベル賞

2010年10月7日



またまた複数のノーベル賞受賞である。北欧、とりわけスウェーデン、ストックホルムに何度も社会福祉研修、保育、幼児教育の基礎的考えを学ばせていただいた身には感慨深い。

ストックホルム在住の日本人通訳の女性が、訪問するたびに口を酸っぱくして言っていたことがある。

「島田さん。日本人はノーベル賞にたくさんノミネートされているのよ。活躍している人が多いことを知っていて。これからも複数の受賞者はでると思うわよ。」

その通り、今年も複数の受賞者。本当に輝かしいことだ。75歳と80歳の受賞者。その方々を育てた環境は、どうであったのだろう。苦労を工夫に変えてこの国のみならず世界、人類に貢献される研究・発見をされた。

そんな教育が、この国の原点。じっくりとそこに取り組むことのできる政策を国がやらなければ。国がやらなければ県が。県がやらなければ市が。そこに全力で注ぐべき時が今である。

夜は、防府市聴覚障害者災害対策協議会主催の防災講習会に出席。下関地方気象台、防災業務課調査官中嶋操氏の講演を聞く。めちゃくちゃ為になった。奇しくも高校の1学年先輩であったが、数多くの質問に応えながら、的確に災害時の対応を学ぶことができた。

多角的に学んでいくことで、自分が力をつけていくことが、求められている時代と認識。
明日からもがんばるぞう。

無理をしない

2010年10月6日

作品展の礼状を頂戴する。友人からのものだが、最後にカッコ書きで「無理をしないで」とあったのが、心に響く。お礼のメールを打ちつつ、「作品から感動をもらうのは、その作品が無理をしていないように見えるからではないか。」
と、ふと思う。

無理をしないで過ごせる日が来ることを願いながら、今無理をする。

それにしても、防府でのニュース、事柄は、あまりにも無理をしすぎているのではなからうか。

防府市民音楽祭

2010年10月5日



10月31日(日)12時からアスピラートにて防府市民音楽祭が開催され、中関幼稚園ママさんコーラスも参加する。

出演を始めて何回かになるが、「出場することに意義がある。」と思っている。

指揮をする私だけではなく、お母さんたちもそう思っているに違いない。

だから練習もかなりユニークだ。一般的に練習は発声から始まるのだが、この合唱団は違う。まず「お茶」なのだ。コーヒー、持ち寄ったお菓子をつまみ、もろもろの話をし、いつの間にか曲の打ち合わせとなる。

時には、大半ティータイムでという時もあるやに聞く。

幼稚園のママさんコーラスだけに、この「ゆるゆる感」も大切な時かも。

「小さな子どもを連れてコーラスに参加できるのはここだけ！」とあるお母さん。「子育てで悩んでいたら、先輩のお母さんが相談にのってくれるし・・・」。さながら子育てサロンのようでもある。

コンクールのように、音程、リズム、声質、表現などを競うのも独特の緊張感があり悪くはないが、最近はそのことを求めつつも、どこまでステージで楽しく自分たちらしく歌えるかのほうが私自身もいように思う。

しかし、そうなる本番での緊張感はまた違ったものになる。「最後まで歌えるかしら。」「誰がどこを歌うのだっけ」などと音楽祭前でも不安になる言葉が平気で飛び交う。

でも、出場する。凄いと思う。そして実際本番ではなんとかやってしまうのである。防府を元気にしていく源はこのような小さな積み重ね。あるいは度胸かも。

音楽祭の正式タイトルは、「第4回山口県総合芸術文化祭協賛事業・第41回防府市民文化祭 防府市民音楽祭」。

ただ、今年から予算削減でポスターが印刷からコピーに変わった。

私学

2010年10月4日

夕刻より、「山口県私学振興議員連盟定例会」に出席。

二井知事や県内私学代表の挨拶や思いを聞く。

県内の私学は、これまで山口県教育、いわゆる防長教育への貢献は相当なものがあったことを、再認識。

千葉国体でも、かなりの活躍を見せているとの報告もあった。

ところで、山口県の私学ってどこまでの範囲なのか、どれほどの人が知っているのだろうか？と、ふと疑問が湧く。私立大学、私立高校、私立中学、私立幼稚園、各種学校、学院と様々である。正確には、山口県私立中学高等学校協会、財団法人山口県私立幼稚園協会、財団法人山口県専修学校各種学校協会、山口県私立大学協会である。県内には私立の小学校はない。このことは、地方私学の今後の課題かもしれない。

なお、「私学」の共通するところは、経営をしっかりとつづけるということ。ここが、公立学校と根本的に違うところである。

少子化による危機感も相当なものを、実感。

「私学があることの大事さ」をもっと多くの方に認識いただければありがたい。

ちなみに「松下村塾」も私学であった。いや私塾であった。

秋の空

2010年10月3日



幼稚園、保育園合同の運動会、「わいわいスポーツフェスティバル」残念ながら雨の予報で中止に。

朝6時にPTA会長さんたちと運動場に集合。青空が見えるが、天気予報は8時ころから日中雨の予想。判断が難しいが、子どもたちの安全も考慮し「中止」に決定。

園児保護者は連絡網があるが、来賓やお客様との連絡もあり、午前中は待機。

結果的に、天気予報通りであったが、できれば、良い条件の中で秋の1日を親子・家族で素敵な思い出をと願う。

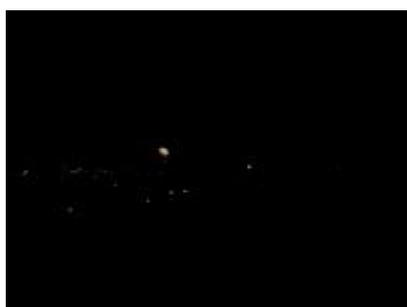
おかげで、午後からは積み残しの仕事を。

気がつけば、初孫が誕生しもう1カ月。

あらためて、この笑顔がキープできるまちづくりを目指すことを自覚。

秋の花火

2010年10月2日



防府商工会議所、青年部40周年。お祝いで「花火」があがる。場所はソルトアリーナ。我が家からもよく見えた。

思わず携帯で撮ったのが本日の写真。

20年前になるであろうか？中関港周辺で花火大会があった。市民から寄付を募ってという当時画期的な企画であったが、経済状況もろもろのことがあり、数年で終わった。

当時、その打ち上げに関わりがあっただけに、残念であったが、きょうの花火で港花火のことを思い出した。

大迫力に、大勢の人が防府に集まり、帰りは大渋滞。その渋滞のすごさが話題を呼ぶ。関係者は、大変なご尽力であったが、時には他市から人が集まってくるようなイベントも必要なのかも。

久しぶりに明るい話題を提供してくれた青年部に感謝。

田頭よしたかさん

2010年10月1日



田頭よしたかさんは、防府出身の絵本作家である。中関南山手、善正寺の坂を下ると、家業であった「洗濯屋さん」が少しほど姿をとどめている。子ども心にも、洗濯屋さん独特の清潔感のあるにおいや、アイロンや蒸気の昇るその雰囲気はなつかしい。

随分前にフレーベル館の園児用絵本4月号で、その洗濯屋さんを題材にされた。その後も、防府で個展をひらかれ、絵本だけではなく、ふるさとの風景を描かれた作品はあったかいものがあった。

その田頭さんが、卒園されたご縁で昨日、絵本を贈って下さった。子育て支援センターや園庭開放の親子にもPRして、ひとりでも多くの方に田頭さんを知ってもらいたいと思う。

この、10月14日から24日まで、尾崎真吾（長門在住の絵本作家）と二人の原画展が開催される。会場はアス

ピラート。

今日は本当に久しぶりにグリークラブの練習に参加。2時間立ちっぱなしでしっかり歌えた。体力的には、学生時代と同じと実感。

写真は、日曜日のわいわいスポーツフェスティバルを控えて、練習中の保育園の園児たち。少し雨が心配です。